



## インタビュー 棚川寛子（音楽）

SPAC - 静岡県舞台芸術センターで、2007年より芸術総監督を務める宮城聡。以降、劇場専属劇団SPACに、自身が主宰していたク・ナウカの一部メンバーが合流し、創作を続けてきた。その歩みを共にしたのが舞台音楽家・棚川寛子だ。俳優たちによるパーカッション楽団を編成し、舞台に独特のリズムと国籍を越えた祝祭性をもたらす。その創作の裏側をきいた。

（取材・文=尾上そら）

### 「真夏の夜の夢」の音楽

――棚川さんが舞台音楽家になるまでの経緯が非常にユニークで、そこからお話を伺えますか。はじめは演劇に関心が強かったそうですが。

棚川　　当時は小劇場ブームが第三世代。「夢の遊眠社」「第三舞台」「ブリキの自発団」などが精力的に活動しており、それらを追いかけていました。でも数多く観るうち、言葉への執着が薄れていったのです。そこからは舞踏やダンスへ興味に移り、ダンスカンパニー「nest」で活動した時期もあります。言葉、意味を伴うものを使わずとも伝わる身体表現のほうが、当時の私には豊かだと思えたんです。

### 「真夏の夜の夢」の音楽

棚川　　当時バルコ劇場が持っていた稽古場でアルバイトをしていたのですが、色々なレッスンを受けられる講座があり、その講師に音楽家の矢野誠さんがいらした。その講座をサークルの先輩の勧めで受けたんです。楽譜も読めず楽器もできないところから始め、当初はひたすら太鼓を叩くだけ。譜面も「耳で覚えたことを自分なりに記録すればいい」と矢野さんがおっしゃるので、“ドン、ダカタカタン”みたいなことを書いていたのですが、いまだに私の譜面は同じ形。SPACでの創作時にも譜面はありません。

――同時期に宮城聡さんにも出会われたのですよね？

棚川　　はい、「ミヤギサトショー」の『純愛伝』（90）などを観て、その気持ち悪さも含め（笑）強く惹かれました。で、宮城さんが『ハムレット』（90）のオーディションをすると聞いて受け、見事に落ち（笑）、けれど行く先々の劇場で宮城さんに会う



真夏の夜の夢 (2014) © K.Miura

偶然が続きました。そのうちに「作品に楽器を入れようと思うけれど出ない？」とお声がけいただいた。『トウランドット』（92）が最初です。考えてみると長いですね、宮城さんとの創作も。

### 「真夏の夜の夢」の音楽

――離れていた演劇に、1周して違う形で戻っていらしたのですね。譜面がないとおっしゃいましたが、どのように作品に対して音楽を作り、構成しているのでしょうか。

棚川　　ク・ナウカ初期は本読みから始め、立ち稽古を経て、ある程度シーンができたところで「音楽をつけようか」という普通の順番でした。それが『マハーバーラタ』（03）くらいから、立ち稽古にほぼ並行する形で音楽を入れ始めた。SPACに来てからは、音楽先行という場合もままあるという状況です。

――棚川さんの音楽によって、宮城さんが演出プランを喚起され、創作が進行していく、と。

棚川　　作品全体がそのつくり方というわけではなく、場面によって、でしょうか。何かしらプランを提示しジャッジしてもらう、というやり方をよくとります。

――非常に贅沢なつくり方ですね。

棚川　　私のほうも、初動は任せてもらえますから、自由に伸び伸びつくれる今の形は有り難いです。長いリードをつけた私をある段階までは放し飼いで

めながら音楽をつくり、演奏していくほうがイメージが広がるし、創作物の完成度も上がると思っているんです。

真夏の夜の夢 (2014) © K.Miura

### 「真夏の夜の夢」の音楽

――上演中演奏する楽隊も、ほぼ俳優で編成されていますが、練習はどうしているのでしょうか？

棚川　　SPACでは芝居の稽古前にスズキメソッドなどの基礎訓練がありますが、それと一緒に太鼓の裏打ち・表打ちや、マレット（様々な打楽器を演奏するためのパチ）でリズムを刻むなどの練習もしてもらいます。最初は「俳優の自分たちがなぜ楽器を？」という空気もありましたが、楽器の演奏も演技と同じように自分を表現することになると、共有してくださる方がだんだん増え、皆さん非常に上手くなりました。それに台詞による演技の交感以上に、相手のコンディションが

### 「真夏の夜の夢」の音楽

伝わるようで。叩けば鳴る打楽器ですが、実は演奏者の身体の延長上にある「観念の音」が聴こえると私は思っているんです。その日の機嫌の良し悪しから、作品や役に対して考えていることまでがダイレクトに音に反映する。そのうえ台詞をきっかけに演奏し、リズムを刻んでいますから、芝居の伸び縮みなども実感しやすい。演技とは違う形で、芝居の全貌を俳優が体感できる手段になっているのだと思います。

真夏の夜の夢 (2014) © K.Miura

### 「真夏の夜の夢」の音楽

――SPACの作品は、俳優陣の演技のコントロールが非常に良いと思っていましたが、演技と音楽が一体化していることによるのだとわかりました。『真夏の夜の夢』に限らず、宮城作品はその「祝祭性」の高さが特色とされていますが、音楽で意識されていることはありますか？

棚川　　私個人は、祝祭性に関して特別意識はしていません。ク・ナウカ時代の創作では悲劇を扱うことが多く、ハッピーエンドの作品をやりたいという声が少しずつ劇団内でも増えたことがあり、結果、選ぶ作品が祝祭性を帯びたものへとシフトした。それに沿って音楽の傾向も変わっていったのか、と。私にとって台本が楽譜ですから。ただ、パーカッションのプリミティブなリズム、響きが人間の生命に関する根源的な何かを刺激し、作品の持つ祝祭性と呼応しているところはあるのかもしれない。

キャスト/スタッフ	Cast & Creative Team
演出：宮城 聡 <p>作：ウィリアム・シェイクスピア　小田島雄志訳『夏の夜の夢』より 潤色：野田秀樹 音楽：棚川寛子</p>	Direction: Satoshi Miyagi <p>Text: William Shakespeare (Translation: Yushi Odashima) Embellishment: Hideki Noda Music: Hiroko Tanakawa</p>
出演（SPAC）： <p>〔そぼろ〕本多麻紀 〔ときたまご〕池田真紀子 〔板前デミ〕大道無門優也 〔板前ライ〕泉 陽二 〔割烹ハナキンの主人〕大浩浩一 〔仲居おてもと〕桜内結う 〔福助〕小長谷勝彦</p>	Cast（SPAC）: <p>Soboro: Maki Honda Tokitamago: Makiko Ikeda Demi: Yuya Daidomumon Ly: Yoji Izumi Hanakin's Master: Kouichi Ohtaka Otemoto: Yu Sakurauchi Fukusuke: Katsuhiko Konagaya</p>
〔オーベロン〕貴島 豪 〔タイターニア〕たきいみき 〔バック〕牧山祐大 〔メフィストフェレス〕渡辺敬彦	Oberon: Tsuyoshi Kijima Titania: Miki Takii Puck: Yudai Makiyama Mephistopheles: Takahiko Watanabe
“出入業者” <p>〔氷屋〕加藤幸夫 〔豆腐屋〕武石守正 〔酒屋〕春日井一平</p>	The Merchants (Hanakin Patrons) <p>Kohriya: Yukio Kato Tofuya: Morimasa Takeishi Sakeya: Ippei Kasugai</p>
“妖精たち” <p>〔年の精〕森山冬子 〔妖精〕鈴木真理子 〔あたしの精〕赤松直美、石井朋水、木内琴子 〔目が悪い精〕柴田あさみ、吉見 亮 〔耳が悪い精〕佐藤ゆず、若宮羊市 〔夏の精かしら〕河村若菜</p>	The Fairies <p>Toshinosei: Fuyuko Moriyama Fairy: Mariko Suzuki Aatashinosei: Naomi Akamatsu, Moemi Ishii, Kotoko Kiuchi Mewagaruraisei: Asami Shibata, Ryo Yoshimi Mimigawaruraisei: Yuzu Sato, Yoichi Wakamiya Natsunoseikashira: Wakana Kawamura</p>

照明デザイン：岩品武顕（（公財）埼玉県芸術文化振興財団） 舞台美術デザイン：深沢 襟（SPAC） 衣裳デザイン：駒井友美子（SPAC） 音響デザイン：加藤久直（SPAC）	Lighting Design: Takeaki Iwashina (Saitama Arts Foundation) Stage Design: Eri Fukasawa (SPAC) Costume Design: Yumiko Komai (SPAC) Sound Design: Hisanao Kato (SPAC)
舞台監督：村松厚志（SPAC） 演出補：中野真希（SPAC） 舞台：佐藤洋輔、神谷俊貴、榊 康雄（SPAC） 照明操作：松村彩香（SPAC） 音響操作：牧嶋康司、月井ゆかり（SCアライアンス） 衣裳：畑ジェニファー友紀（SPAC） 衣裳アシスタント：岡本温子、藤谷香子（FAIFAI） ヘアメイク：梶田キョウコ、高橋慶光、福田優里香（レサンクサンス） 英語字幕翻訳作成：エグリントンみか 英語字幕翻訳協力：アンドリュウ・エグリントン 英語字幕操作：板垣朱音（SPAC） 宣伝美術：阿部太一〔GOKIGEN〕	Stage Manager: Atsushi Muramatsu (SPAC) Assistant Director: Masaki Nakano (SPAC) Stage Assistants: Yosuke Sato, Toshiki Kamiya, Yasuo Sakaki (SPAC) Lighting Operation: Ayaka Matsumura (SPAC) Sound Operation: Koji Makishima, Yukari Tsukii (S.C.ALLIANCE) Wardrobe: Jenifer Yuki Hata (SPAC) Wardrobe Assistants: Atsuko Okamoto, Kyoko Fujitani (FAIFAI) Hair & Makeup: Kyoko Kajita, Norimitsu Takahashi, Yurika Fukuda (LES CINQ SENS)
制作：仲村悠希、板垣朱音、丹治 陽（SPAC） 三羊文乃、河合千佳（フェスティバル/トーキョー） インターン：大橋桃奈、尾崎夏美、胡 淵、中條 愛、那 詩瑠 フロント運営：丸山 立	Production Co-ordination: Yuki Nakamura, Akane Itagaki, Haru Tanji (SPAC) Ayano Misao, Chika Kawai (Festival/Tokyo) Interns: Momona Ohashi, Natsumi Ozaki, Hu Lan, Megumi Chujo, Deng Shiyao Front of House: Ryu Maruyama
記録写真：松本和幸 記録映像：株式会社彩高堂〔西池袋映像〕	Photography: Kazuyuki Matsumoto Video Documentaiton: SAIKUDO Co., Ltd.
製作：SPAC - 静岡県舞台芸術センター 協力：NODA・MAP 主催：フェスティバル/トーキョー	Produced by Shizuoka Performing Arts Center (SPAC) In co-operation with NODA・MAP Presented by Festival/Tokyo